

愛別町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

民間バス路線の廃線に伴い、町民の交通手段を確保するため、町営路線バスを代替路線として運行してきたが、自動車を中心とする生活形態の変化や、少子化に伴う学校の統合によるスクールバスの運行などの影響を受けて利用者数が減少し、定時路線の運航体制は住民のニーズに対応できていなかった。
また、愛別駅裏側に位置する交通空白地帯の公共交通体制の確保も課題となっていた。そのため、「愛別町地域公共交通計画」に基づき、町営路線バスを利便性の高い事前予約型のデマンド運航にするとともに、地域間幹線系統との接続や交通空白地帯の解消を考慮した運行ルートや時間帯を設定し、地域住民の重要な公共交通機関として維持・確保を図ることを目指す。

生活交通確保維持改善計画の目標

【数値目標】

年間利用者数 3,931人【R2.10～R3.9 実績:4,188人】

1運行あたり利用者数 3.6人【R2.10～R3.9 実績:4.4人】

令和5年度事業概要

運行系統名:協和二股線 運行区間:愛別駅～愛別駅(循環型)
運行形態:デマンド運行 運行便数:5便/日
運賃:100円

地域公共交通の現況

- ・ JR石北本線（愛別駅、中愛別駅、愛山駅、安足間駅）
- ・ 道北バス（層雲峡線、愛別線（比布経由））
- ・ スクールバス

協議会開催状況

【令和5年1月17日】

・ 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価内容の審議

【令和5年6月28日】

令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画内容の審議

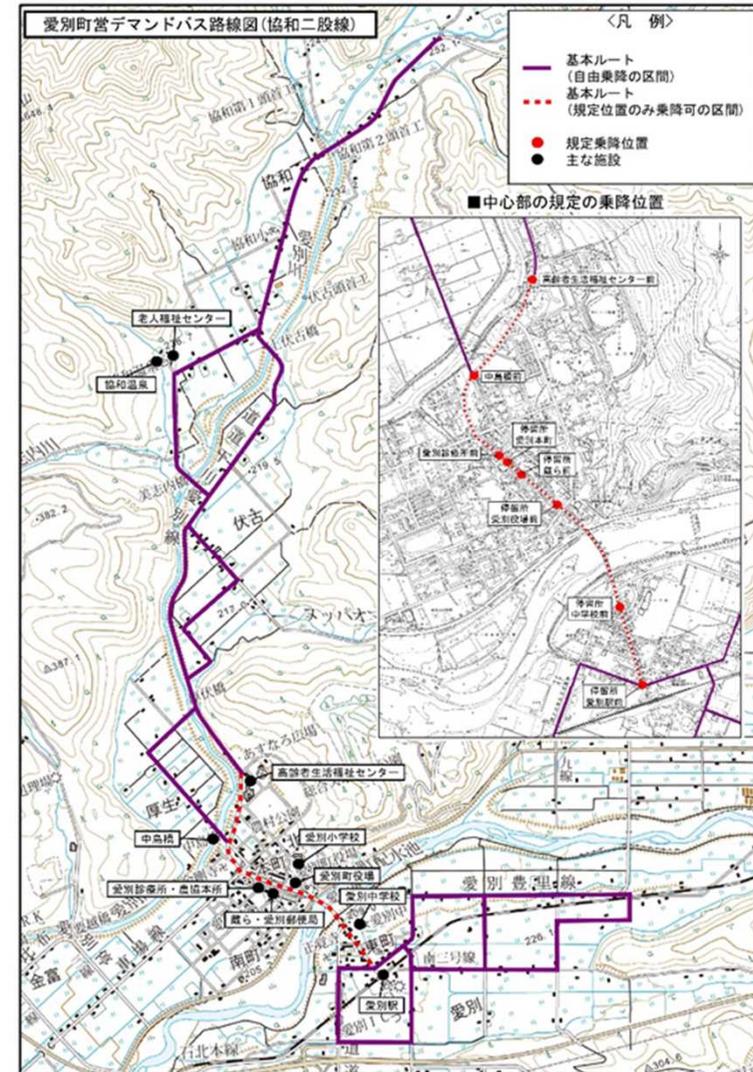
【令和6年1月23日】

・ 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価の審議

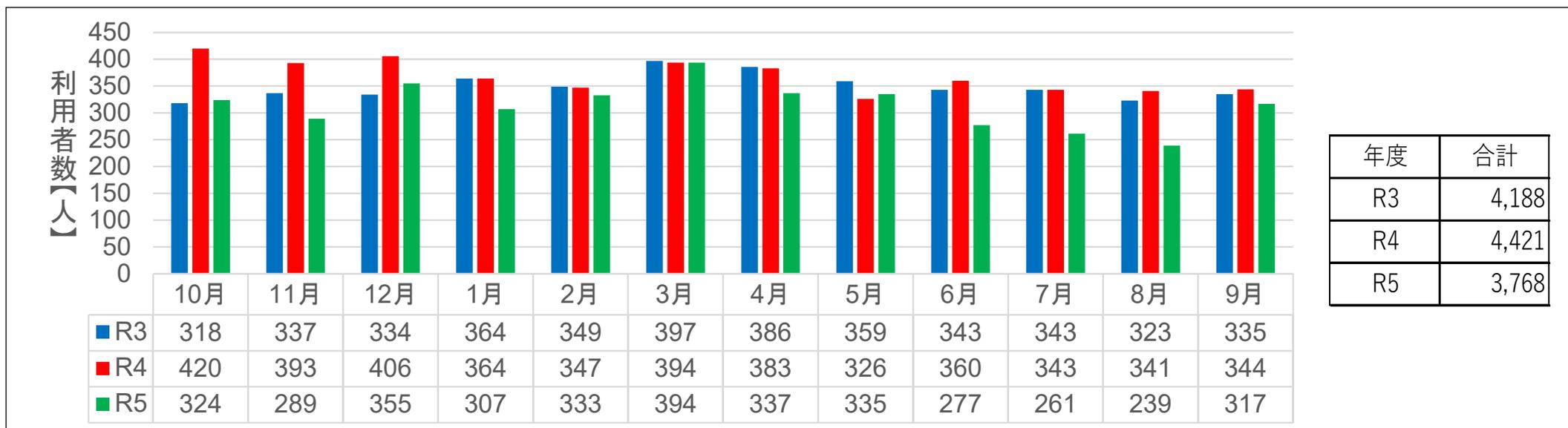
1) プロセス、創意工夫

- ・定期運航していた町営バス(協和線)を事前予約型のデマンド運行に移行し、効率的な運行を目指す。
- ・交通空白地帯となっている愛別地区をデマンド運行地域に定めることで、交通空白地帯の解消を図る。
- ・JR石北本線や道北バスとの接続を可能とする運行時間帯を設定することで、町内外の移動に対する利便性を高める。

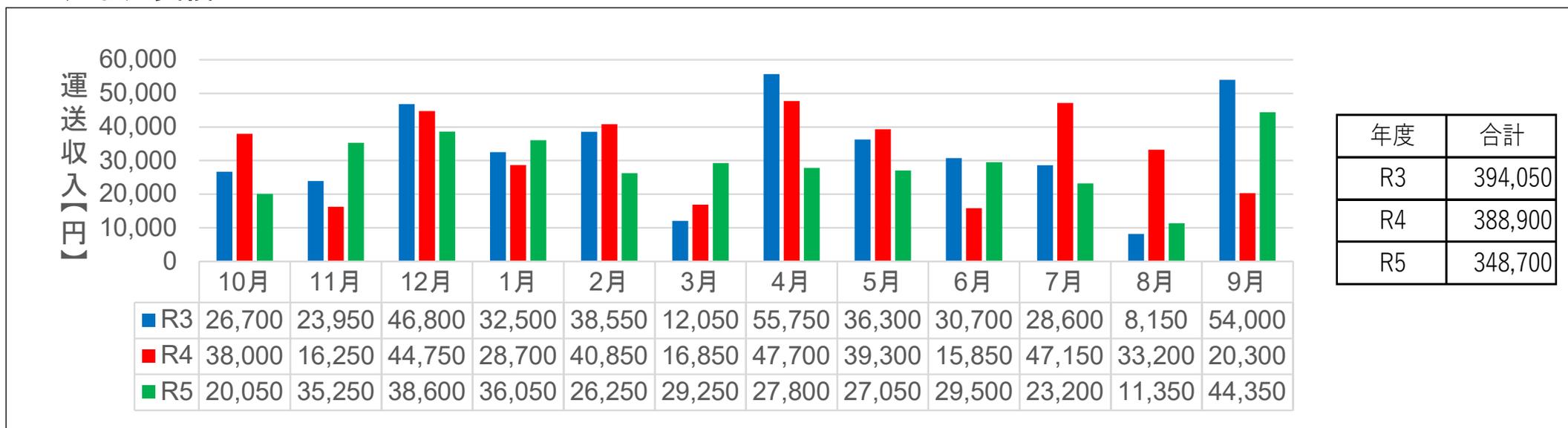
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

・JR石北本線や道北バスとの接続を可能とする運行時間帯を設定することで、町内外の移動に対する利便性を高めることができた。

・町内事業者には雇用されている研修生等の利用増加により、利用者数が増加した。

・JRや道北バスへの乗り継ぎ利用も一定程度確保され、通勤、通学や高齢者等の日常的な移動手段として維持・確保が図られた。

・利用者数実績は3,768人で、目標値3,931人の約96%、1運行あたり利用者数実績は3.1人で目標値3.6人の約86%であり、数値目標はいずれも達成することができなかった。

7) 事業の今後の改善点

・広報紙やホームページ、チラシ配布による利用方法等の周知を継続して行い、安定した利用者数及び運行収入の確保に努める。

・町内事業者には雇用されている研修生等の利用についても積極的に働きかけ、安定した利用者数及び運行収入の確保に努める。

・適宜、アンケート調査等を実施し、地域住民の意見を反映した地域公共交通体制の確保に努める。

・JRや道北バスの時刻表改訂等があった場合は、随時、運行時間の検証を行う。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・ 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・ 目標値を達成することができなかったが、今後も新たな利用者ニーズの掘り起こしを行うなど、更なる利用促進の取組を期待する。
- ・ 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。